

学校の概要（平成15年4月現在）

鹿角市立尾去沢中学校						
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 14
学級数	2	1	1	1	5	
児童数	43	34	32	1	110	

研究の概要

1 研究主題

確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ生徒の育成 ～生徒一人一人の願いや能力に応じた指導の工夫～
---

2 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年、全教科で研究実践を行う。学力向上は、教科における学習はもちろん、情意面も含め、学校の教育活動全体で取り組むべきであるという考えに基づく。 しかし、学校規模、職員数や免許の関係から、特に、全学年5教科（国語、社会、数学、理科、英語）と全学年保健体育科を中心に研究を進め、成果を全体に普及し、共有化を図る。
--

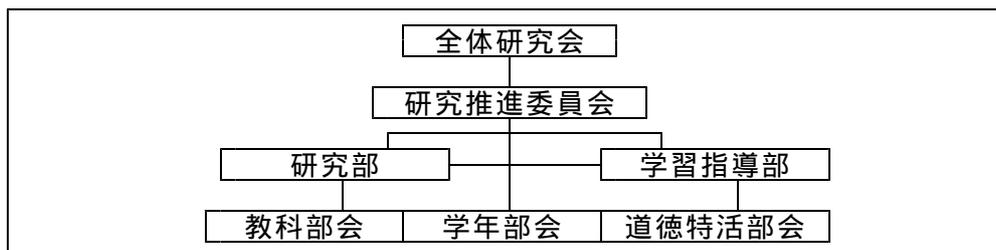
(2) 年次計画

平成15年度	テーマ 確かな学力を身に付け、主体的に学ぶ生徒の育成 ～生徒一人一人の願いや能力に応じた指導の工夫～ 仮説 生徒が目標をもち、教師がその目標や能力に応じた指導方法や指導体制を工夫することで、基礎・基本を身に付け主体的に学ぶ生徒になるのではないか。 研究内容 (1) 個に応じる指導体制・指導方法の工夫 ・効果的なTTの工夫（数学、英語、理科、国語、保健体育） ・少人数学習の推進（数学、英語、理科、国語、保健体育） ・習熟度別学習の研究（数学、英語） 平成14年度は、少人数に分けることを基本としたが、必ずしも分けることが効果的でない場面もあった。15年度は少人数学習そのものの形態にこだわるのではなく、複数の教師がいることのメリットを生かした、より効果的な指導方法を模索する																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>国語</th> <th>数学</th> <th>理科</th> <th>保体</th> <th>英語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td>1C2T</td> <td>1C2T</td> <td></td> <td>1C2T</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>1C2T</td> <td>1C3T</td> <td>1C2T</td> <td>1C2T</td> <td>1C3T</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>1C2T</td> <td>1C3T</td> <td>1C2T</td> <td></td> <td>1C3T</td> </tr> </tbody> </table>		国語	数学	理科	保体	英語	1年		1C2T	1C2T		1C2T	2年	1C2T	1C3T	1C2T	1C2T	1C3T	3年	1C2T	1C3T	1C2T	
	国語	数学	理科	保体	英語																			
1年		1C2T	1C2T		1C2T																			
2年	1C2T	1C3T	1C2T	1C2T	1C3T																			
3年	1C2T	1C3T	1C2T		1C3T																			
	(2) 生徒が課題や目標を設定し評価する力の育成 主体的に学ぶ生徒を育てるためには、生徒自身に学ぶ目標をもたせることが大切であるという考えから、生徒の目標設定と自己評価を各期の指導サイクルに盛り込む。 ・期（ 期制）の最初に評価項目一覧を配布する。 ・期ごとに生徒は学習目標を設定する。 ・教師は生徒の立てた学習目標に目を通し、目標実現のため、援助したり励ましたりする。 ・期ごとに生徒は自分の学習目標を自己評価する。																							

	<p>(3)生徒の願いや能力に応じる学習場面の確保        苦手教科を克服し，得意分野を伸ばすために，発展的な学習や補充的な学習を可能にする時間を確保する。        ・寺子屋：生徒が教科を選んで自学する時間を週1時間設定        ・学習会：テスト前に2日，学習相談会の実施        ・選択教科：発展的な学習や補充的な学習など，個に応じるための教材開発        ・「学習の悩みお助け箱」を教室に設置。生徒の悩みに積極的に耳を傾け支援する。</p> <p>(4)学習量を確保し基礎・基本を定着させるための工夫        ・月例テストの実施（5教科の基礎・基本テスト，毎月第3水曜日）        ・月例テスト全校一斉再テスト        ・全校自学自習ノートの取り組み        ・全校朝読書と100マス計算の取り組み</p> <p>研究の方法</p> <p>(1) 全職員が共通課題をもって研究に臨むために，授業研究会では指導案検討会から授業参観，研究会まで全職員が参加する。        (2) 授業改善のために，「授業を見合う会」を発足し，最低週1度は他の授業参観をする。        (3) 授業改善のために，「授業評価チェックリスト」を作成し，授業参観や自分の授業の自己評価に役立てる。        (4) 全教科について，生徒による授業評価を実施し，研究が生徒にとって有効に機能しているかどうか確認する。        (5) 2回の校内教科授業研究会と1回の校内道徳研究会を通して，日頃の実践の成果と課題を検証する。        (6) 学習状況調査，NRT，学習アンケートの結果から研究の成果と課題をまとめる。</p>
--	--

<p>平成16年度</p>	<p>テーマ        確かな学力を身に付け，主体的に学ぶ生徒の育成        ～生徒一人一人の願いや能力に応じた指導の工夫～</p> <p>仮説        生徒が目標をもち，教師がその目標や能力に応じた指導方法や指導体制を工夫することで，基礎・基本を身に付け主体的に学ぶ生徒になるのではないか。</p> <p>研究内容・方法        15年度までに学力向上のための外的条件（評価方法，月例テスト，寺子屋など）はほぼ整っている。16年度はこれらの一層の充実を図りながら，授業そのものの質を高めることで学力向上を図る。</p> <p>(1)研究内容：授業改善        ・本校の3つの柱を全員で共通理解し，授業改善に努める。          ねらいの焦点化          学習意欲の高揚          変容の確認        ・複数教員配置教科における個に応じた指導の一層の充実を図る。        ・各教科における個に応じた教材開発を工夫する。</p> <p>(2)研究方法        ・授業を見合う会（職員同士の授業参観）を継続する。        ・「本校の授業改善チェックリスト」を授業参観や教師の自己評価に役立てる。        ・研究会では指導案検討会，授業参観，研究会まで全職員が参加し，共通理解を図る。        ・11月（予定）に公開授業研究会を実施し，2年間の取り組みの成果を発表する。        ・学習状況調査やNRT検査を踏まえて，研究の成果と課題をまとめる。</p>
---------------	--

### (3) 研究体制



### 平成15年度の成果及び課題

#### 成果

##### (1) 学習状況調査アンケート結果より

各設問の「強くそう思う」と「そう思う」という肯定的に答えている生徒の割合から、本校の生徒たちの学習に向かう意欲はかなり高いことが分かる。

「学校の勉強がよく分かる」の項目では、全県平均43.8%に対し、本校の3年生は69.7%となっており、「勉強が好きだ」の項目では全県平均が18.6%に対し、本校は33.3%である。特に3年生は、すべての項目で、全県平均を大きく上回っており、春に行った同じ調査と比較して、「学校の勉強がよく分かる」の項目では、50%から69.7%に上昇している。

この結果は、これまで実践してきた少人数学習やTTによる、個に応じたきめ細かな指導が有効に機能し、生徒の学習意欲を喚起しているものと思われる。

	1 年	県	2 年	県	3 年	県
1. 学校が好きだ	56.1	68.4	44.1	60.5	73.3	59.1
2. 勉強好きだ	43.9	31.7	14.7	20.3	33.3	18.6
3. 勉強は大切だ	83.9	85.8	76.5	79.3	93.3	81.2
4. 勉強よくわかる	60.9	62.6	50.0	47.6	70.0	44.8
5. 受験に関係なくても大切	87.8	76.9	70.6	67.0	80.0	68.5
6. よい成績のため勉強	92.7	84.6	70.6	80.0	96.7	84.3
7. 受験に役立つ勉強	95.1	85.4	79.4	84.2	93.4	87.6
8. 自分の好きな仕事につく	87.8	84.4	85.3	81.6	90.0	85.0
9. 自分の力で答えを	78.1	76.9	70.6	69.5	93.3	73.7
10. 普段の生活や社会に役立つ	75.6	75.9	79.4	68.6	90.0	71.4

太字は全県平均を上回っているもの

##### (2) 個に応じる指導体制や指導方法の工夫

TTや少人数学習、習熟度別学習などの指導体制の強化は、免許外のTTも含めて、可能な限り導入している。本校で実施している生徒を対象にしたアンケート調査の中のTTや習熟度別学習への生徒の意見は、いずれも90%程度の生徒が肯定的に受け止めている。

また、平成14年度の成果と課題から指導体制の形態だけが先行しないよう、今年度は授業の視点として、ねらいの焦点化、学習意欲の高揚、変容の確認の3つを意識して実践してきた。それを検証する手段として2学期後半からは、「授業を見合う会」を実施し、いつでもお互いの授業を見合うことができるようなシステムを作り実践している。このように授業をオープンにすることで、お互いの指導力の向上や授業改善が図られてきた。

##### (3) 生徒の願いや能力に応じた学習場面の確保

本校では、数年前から保護者を対象にした学校評価アンケートと並行して、生徒を対象にしたアンケートも実施してきた。その中で、テスト前に行っていた寺子屋（自分で学習したい教科の先生の下で自主学習）を増やしてほしい、という意見が多くあり、今年度からは毎週1時間特設してきた。受身になりがちな学習を主体的なものに変えるとともに、この時間を有効に活用したいという生徒が増えている。

##### (4) 学習量の確保と基礎・基本の定着

本校では、全校一斉の月例テストを実施している。これは、各教科の基礎的・基

本的な内容（最低これだけは全員が覚えなければならないこと）をテストするもので、満点を目指して頑張る生徒の姿が目立つようになった。

また、生徒会学習委員会の活動の一環として、自学ノート（家庭学習ノート）の提出調べをしている。家庭学習の必要性和習慣化を図る上で効果を上げている。

(5) 評価規準の提示

本校は年間を～までの4期に区切り、それぞれ評価規準を作成し、その内容を生徒にも提示している。生徒は各教科でどんなことを学び、何をどう頑張ればよいのかという見通しを立てることができるので、学ぶ意欲を高め、主体的に学習する態度を育てる上で効果的であった。

(6) 研究内容の共有

本校では年間3回の授業研究会を実施したが、教科担任が1～2名しかいないことや、研究の普及拡大を図りたいという観点から、指導案の検討会と授業研究会を全職員で行っている。他教科の授業を見るだけでなく、一緒に研究会に参加することで客観的に自分の教科を見つめ直すことにつながり、来年度も継続してほしいという声が多数を占めた。

**課題**

(1) 学習状況調査より

1年	国語	社会	数学	理科	英語	合計
全県平均通過率	81.5%	64.6	59.8	75.7		70.4
本校平均通過率	75.6	59.0	44.9	63.2		60.6
全県平均通過率との差	-5.9	-5.6	-14.9	-12.5		-9.8

2年	国語	社会	数学	理科	英語	合計
全県平均通過率	69.4	51.0	51.0	57.5	62.4	58.3
本校平均通過率	61.7	42.1	46.5	46.2	59.1	51.1
全県平均通過率との差	-7.7	-8.9	-4.5	-11.3	-3.3	-7.2

3年	国語	社会	数学	理科	英語	合計
全県平均通過率	74.3	58.8	55.5	55.5	67.7	62.4
本校平均通過率	69.8	57.0	47.0	48.8	64.7	57.5
全県平均通過率との差	-4.5	-1.8	-8.5	-6.7	-3.0	-4.9

本校の生徒は、学習意欲の面では高いが、学力そのものは、県平均を大きく下回るといふ残念な結果が出ている。

1年生は全教科とも全県平均を下回っており、小学校での学習が定着していない状態である。特に数学と理科の落ち込みが激しく、全県平均から10%以上の開きがある。従って、授業改善とともに、全教科において補充的な学習や家庭学習等により強化していくことが急務と考えている。

2年生も、全教科とも全県平均を下回っており、1年生の学習の定着が不十分な状態である。しかし、数学・英語は比較的県平均との差が少ない。昨年度から1C3T体制で指導を強化してきた成果と考えられる。学習に関する意欲は比較的高く、授業態度もよい学年である。このことから引き上げは十分可能であると考えられる。「楽しい・おもしろい」だけでなく、「分かった」という本当の喜びを味わわせる強い姿勢が必要と考える。

3年生も全教科全県平均を下回っており、学習の定着が不十分な状況である。社会と英語は比較的県平均との差が小さいが、数学と理科は全県平均との差が大きい。

(2) 授業改善

本校の授業の視点 **ねらいの焦点化** **学習意欲の高揚** **変容の確認**を意識した授業を心がけてきたが、**ねらい**に関してはまだまだ不十分であったことは否定できないので、この点を最重点課題として取り組みたい。

また、指導体制（TTなど）と指導形態（少人数学習・習熟度別学習）の一層の推進が必要であり、生徒同士の学び合いの時間を確保し、より主体的な学習にするための、教室の机の配置や班編成などの工夫と合わせて研究を進めたい。

(3) 主体的な学習への転換

本校では、期それぞれに生徒が学習目標を立てて自己評価するというシステムを行ってきたが、十分な効果が得られなかった。しかし、自己目標の構築と自己評価は主体的な学習の推進には不可欠なもので、来年度以降は評価のスパーンを短くすることでマンネリ化を防ぎ、生徒の意欲向上につなげたいと考えている。また、授業のパターン化や学習カードの活用などの工夫改善に取り組みたい。

(4) 教育課程の工夫改善

学力向上のためには授業改善がその中心となるが、教育課程全体を通して行うべきものである。新学習指導要領の全面実施から2年が経過し、新規に導入された総合的な学習の時間や大幅に拡大された選択教科への取り組みなど、課題も出てきている。

本校では、毎学期ごとの自己評価と保護者や生徒を対象にした外部評価を実施して、多くの意見を取り上げながら的確な生徒の実態把握に努めている。これらをもとに、教育課程全体についてさらに工夫改善を図りながら、学力向上につなげたいと考えている。

**まとめ**

平成15年度は、学習意欲の喚起には成功したが、学力向上という点では思うような結果が出せなかったと認めざるを得ない。このことを真っ正面から受け止めて全力で指導改善を図りたい。

全校的な傾向として、数学、理科に対する苦手意識が大きく見られる。この2教科については来年度のTTの在り方を再度検討し、基礎・基本の定着を図る必要がある。同時に、授業だけでは教えない生徒の補習や、能力に応じた家庭学習のさせ方の工夫に取り組みたい。

また、小規模校でTTに取り組んでいるため、どうしても免許外教科の指導や時数増などの負担が出てきている。ある程度は仕方ないが、時間割の工夫などで、教材研究できる時間を確保し、授業そのものの質を高めることを第一に取り組みたい。

学力把握のための学校の取り組みについて

- ・鹿角郡市で取り組んでいるNRT検査の分析（年1回）
- ・秋田県で実施する学習状況調査の活用（年1回）
- ・学習に関するアンケート（年1回）
- ・本校で実施する生徒による教師の通信簿（各期ごと年4回）

フロンティアスクールの成果の普及について

平成15年度

- (1)第1回授業研究会（6月5日）  
教科：数学，保健体育
- (2)第2回授業研究会（11月12日）  
教科：英語
- (3)第3回授業研究会  
道徳（11月18日）
- (4)全県数学研究会（9月26日）  
習熟度に応じた指導の工夫
- (5)ホームページの作成  
<http://www.ink.or.jp/~kanayama>
- (6)保護者版研究部報の発行  
本校の取り組みを紹介し保護者の理解と協力を得る。

平成16年度

- (7)平成16年11月19日 自主公開予定  
（国語，社会，数学，理科，英語，保健体育科）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                                     |                                     |                             |                                |
|----------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 【新規校・継続校】            | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 |                             |                                |
| 【学校規模】               | <input type="checkbox"/> 3学級以下      | <input type="checkbox"/> 4～6学級      |                             |                                |
|                      | <input type="checkbox"/> 7～9学級      | <input type="checkbox"/> 10～12学級    |                             |                                |
|                      | <input type="checkbox"/> 13～15学級    | <input type="checkbox"/> 16学級以上     |                             |                                |
| 【指導体制】               | <input type="checkbox"/> 少人数指導      | <input type="checkbox"/> TTによる指導    |                             |                                |
|                      | <input type="checkbox"/> その他        |                                     |                             |                                |
| 【研究教科】               | <input type="checkbox"/> 国語         | <input type="checkbox"/> 社会         | <input type="checkbox"/> 数学 | <input type="checkbox"/> 理科    |
|                      | <input type="checkbox"/> 外国語        | <input type="checkbox"/> 音楽         | <input type="checkbox"/> 美術 | <input type="checkbox"/> 技術・家庭 |
|                      | <input type="checkbox"/> 保健体育       | <input type="checkbox"/> その他        |                             |                                |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有          | <input type="checkbox"/> 無          |                             |                                |